

## 「麻生家文書」の「二重」の整理過程

原口, 大輔  
九州大学附属図書館記録資料館 : 講師

<https://doi.org/10.15017/6617990>

---

出版情報 : 貴重文物講習会. 47, pp.1-, 2022-12-23. Kyushu University Library  
バージョン :  
権利関係 :

### 「麻生家文書」の「二重」の整理過程

※本報告は、本レジュメの内容をもとに ppt スライドを用いて行います。

#### 「麻生家文書」それ自体への問い——はじめに

##### (1) 「麻生家文書」の不思議

###### ◎これまでの仕事・問題関心

###### ○複雑怪奇な識別記号と膨大な史料群

・展示会「「麻生家文書」とその世界」（以下、展示会）の出品リストとその史料番号

→一見すると不思議で、いかなる意味を有するか分かりかねる識別記号

・「麻生家文書」：附属図書館付設記録資料館（以下、記録資料館）の文書箱で 1500 箱以上

→後述するように、1974 年の“発見”以来、半世紀にわたり史料整理・目録作成が行われ、今なお整理は未完

###### ○麻生家・麻生商店の概要

・筑前国嘉麻郡栢森村の豪農

→幕末の当主・賀郎（1820～1887）：幕末期に庄屋を勤めたのを皮切りに、明治維新後は触口、戸長兼大庄屋、嘉麻穂波両郡石炭山元取締などを勤める

・麻生太吉（1857～1933）：立岩村の副戸長・戸長を勤め、明治初期より忠隈・鯉田・笠松・上三緒・山内・豆田・芳雄など各地に炭坑事業を展開し、関係会社にも参画、政治家としても衆議院議員（立憲政友会）を 1 期、貴族院議員（多額納税者議員・研究会）を 2 期務める

・麻生商店：草創期は麻生家を間借りする形で店が構えられ、1897 年 7 月に麻生本邸前に事務所を新築し、「麻生商店」と称する（1918 年、株式会社に改組）

###### ○本報告の試み

・「麻生家文書」はなぜ今のような形で九大に寄託されているのか？

①麻生家・麻生商店の文書管理から「麻生家文書」の形成過程を跡付ける

②九州大学に「麻生家文書」が受け入れられたのちの整理過程について

③ 1)、2) を踏まえ、「麻生家文書」を彩る特徴的な史料や、「麻生家文書」目録データベースについて紹介

→「麻生家文書」の識別記号の謎を解き、その膨大な史料群の可能性を考えたい

#### 1. 麻生家・麻生商店の文書管理

##### (1) 「家法」・「家説」の制定とその特徴

###### ○「家法」（肝要-16）の特徴

- ・麻生太吉：「住友家法」をモデルに「家法」・「家説」を制定（1894年 or 1895年）<sup>1</sup>
- 「家法」全15条はイエ制度に関する規定で、「家説」全49条は「店」に関する規定
- ←麻生家の生活の場である「奥」と、営業の場である「店」とが未分離だった時期
- ・「家法」にみる麻生家の特徴：「家業ハ農商工ノ三業ニ因リ基礎ヲ定ムル者トス」（第5条）
- 庄屋以来、麻生家の「家業」は炭坑経営に限らないという自意識
- 「家説」（肝要-16）の特徴
- ・「家説」：「家法」第13条（家事ト営業トヲ以テ家政トシ家説ヲ以テ整理ノ方法ヲ定ムルモノトス）に対応
- ・家政を整理するために「庶務掛」、「会計掛」、「用度掛」を設置し（第6条）、備えるべき帳簿作成を規定し、（第23条）書類を分別し「類集」するための簿冊の分別（第24条）や、その担当掛が定められた（第25条）（【表1】）
- 太吉：麻生家・麻生商店を運営していくにあたり、広範な種類の簿冊を作成し、記録と資料をしかるべき形で保存・管理すべきことを重々承知していたと推測される
- ←幕末以来、麻生賀郎・太吉と代々務めてきた庄屋、戸長といった地域社会における中間管理職（＝地方名望家？）的な経験が、行政とのやり取りの中で書類作成の重要性を認知していったのでは<sup>2</sup>？
- ・記録管理に対する太吉の強いこだわり
- 「翁〔太吉—引用者注〕はすべてが極めて几帳面であり、万事を整理して、苟くも乱雑や投げやり等の事は決してなかつた。各方面より日々夥しく来る書簡の如き、たとへ一枚の葉書でも之をおろそかにせず、その事件との関係とを一々区分し、之を保存して苟くもしなかつた」<sup>3</sup>
- 「家説」から「麻生商店店則」へ
- ・「麻生商店店則」（以下、店則）<sup>4</sup>：「家説」を廃止する形で1899年に制定され、麻生家・

<sup>1</sup> 以下の内容は、主に畠山秀樹「筑豊麻生家の家法・家説・店則」（麻生太吉日記編纂委員会編『麻生太吉日記』第3巻〔九州大学出版会、2013年〕）、原口大輔「麻生家文書」成立前史」（原口大輔編『麻生家文書とその世界』〔九州大学附属図書館付設記録資料館、2022年〕）を参照。ただし、新たに判明した知見や「麻生家文書」に典拠がある事項についてはその都度注を付す。

<sup>2</sup> 畠山氏は、「家法」「家説」の制定の背景にある、「住友家法」が太吉に与えたインパクトを重視し、「麻生の経営史において短期間に家業経営から近代的企業経営への転換を可能にし、また制度面からそれを促進した」と評価しているが（前掲畠山「筑豊麻生家の家法・家説・店則」、487、488頁）、報告者はそのようなインパクトを受け入れる“土壌”として、明治初期から戸長を務める麻生家が、行政との接触を通して文書管理の業務上必要であった“経験”を重視したい。

<sup>3</sup> 麻生太吉翁伝刊行会編『麻生太吉翁伝』（同会、1935年）、190頁。

<sup>4</sup> 「麻生商店店則・同坑務細則・同給与規則・来信取扱心得・舎宅貸与規則」（「麻生家文

麻生商店との間で混然一体となっていた、両者が明確に分離することに

←「店則」：「麻生商店坑務細則」（以下、坑務細則）、「給与規則」、「来信取扱心得」、「舎宅貸与規則」と一体となって編綴

⇒麻生商店の三掛が四課へと再編され、店員の職掌と役職名も細かく規定（全49条）

・各課・各系の文書管理業務も「店則」、「坑務細則」で規定される（【表2】）

⇒日々の業務で作成された日誌などは日々店長が「検閲」

=作成された簿冊は麻生商店の“現用文書”として活用されることに

○麻生商店の事務室

・太吉の執務室：「本邸内の奥まつた一室」、「何も彼も一系乱れず、見事に整頓」<sup>5</sup>

→「一度眼を脚下に移すと、数多の箱が整然として列んで居る。試みにその一つを開くと、炭坑関係、電気会社関係、鉄道関係、土地関係、政治関係と、苟くも翁が関係した多くの会社、銀行、其他の事業名が一段毎に小さい紙片に書いて貼付けられ、その部分を見れば一目瞭然として関係書類がわかる様に整理してある」、「押入を開くと、十日目毎に纏められた他よりの来信が一束づつ、然もそれが事件毎に区分せられ、一紙だに粗末になつて居ない」<sup>6</sup>

⇒顕彰の色合いが濃い伝記ゆえ、若干オーバーな表現も見られるが、残された「麻生家文書」を見ると、実態はあながち間違いではない

## （2）原則からのいくつかの変化

○麻生太吉の私文書の増加

・当用日記（1906年～1933年）：主に博文館の当用日記を使用し、毛筆（墨書）

・重要事項に関する備忘は別冊に編綴される ex. 「肝要記憶廉附」（な-10）など

・衆議院議員・貴族院議員（＝東京滞在時）の史料は、別系統に保存されることも<sup>7</sup>

○日記・日誌の共用？

・麻生本家日誌は定期的に記録担当者が変わるため、筆跡はまちまち

→本家日誌：麻生家や麻生商店の人々の生活、来訪者といった基礎的な情報にとどまらず、当該期の筑豊の政治・社会・経済・文化といった諸相を定点観測できる極めて貴重な史料

・麻生太吉の当用日記：時々増野爽熊や吉浦勝熊といった執事が書き込んだ形跡あり

○発信原稿の謎？

・発信原稿：原則として、麻生太吉名義で発した書簡の控え or 草稿

---

書」各坑 C-16-5)。

<sup>5</sup> 前掲『麻生太吉翁伝』、191頁。

<sup>6</sup> 前掲『麻生太吉翁伝』、192頁。

<sup>7</sup> それらの史料群の整理目録として、原口大輔・都留慎司「新規整理分「麻生家文書」（議会関係）目録」（『石炭研究資料叢書』第37輯、2016年）、原口大輔「新規整理分「麻生家文書」（議会関係）目録（二）」（『石炭研究資料叢書』第38輯、2017年）。

- ⇒ 太吉が下書きを行い、添削を行ったものと、明らかに吉浦の筆跡のものが混在
- 特に、大正後期以降、吉浦の筆跡で発信原稿は残される
- ・ 太吉はどのような手順で書簡を発したのか？
- 「出信に際し他人に代筆させる折の如き、文意を口述し、一字一句もかりそめにせず、且控を取つて居た」<sup>8</sup>
- = 太吉の口述を発信原稿に下書き（吉浦）し、太吉による清書のうえ発信？
- 太吉の私文書の相互関係
- ・ 大正期以降、太吉の私文書の核として以下が年次ごとに作成される
- 当用日記、本家日誌、発信原稿、来信簿、金銭出納帳、廉附帳（重要事項の綴）

### （3）『麻生太吉翁伝』と麻生家の史料

#### ○ 麻生太吉の伝記

- ・ 1933年12月、麻生の死後、いわゆる公的な伝記が2冊編まれる
- 1) 経済活動に特化した、泉彦蔵『麻生太吉伝』（麻生太吉伝刊行会、1934年）
- 2) 生涯をバランスよく見渡した、『麻生太吉翁伝』（麻生太吉翁伝記刊行会、1935年）
- 2)『麻生太吉翁伝』では麻生家・麻生商店の“現用文書”が活用された形跡あり<sup>9</sup>
- = 「故社長〔太吉一引用者注〕は実に三十七年間の永きに亘り、日誌を認め、之を後に遺されたので、唯一無二の好資料として、その全事業の経過と畢生の歴史とを知り、最も正鵠明確なる伝を編纂し得た」<sup>10</sup>

#### ○ 『麻生太吉翁伝』編纂における若干の整理？

- ・ いくつかの史料には表紙に通し番号を貼付・・・おおよそ1933年が下限
- ex. 当用日記、本家日誌
- 太吉の死後、伝記編纂とあわせて私文書の整理を行った可能性は高い<sup>11</sup>
- ⇒ 『麻生太吉翁伝』に引用される「上京日誌」など、いくつか未見の史料も
- ・ 戦中・戦後の文書管理状況は必ずしも詳らかではない
- ← 麻生商店の事業拡大・経営の多角化、戦後のセメント事業への転換 etc.
- 麻生商店の“現用文書”は徐々に“非現用文書”となり、その「発見」を待つことに

<sup>8</sup> 前掲『麻生太吉翁伝』、190、191頁。

<sup>9</sup> 原口大輔「貴族院議員・麻生太吉の誕生」（『エネルギー史研究』第36号、2021年）。

<sup>10</sup> 前掲『麻生太吉翁伝』、4頁。

<sup>11</sup> なお、新鞍拓生氏は、当用日記、本家日誌、肝要書類などは1930年5月に何等かの事情で整理したと推測している（新鞍拓生「麻生太吉書簡集（一、電力業〈その一〉）——麻生太吉日記関係史料一」〔『石炭研究資料叢書』第33輯、2012年〕、12頁）。

## 2. 九州大学による「麻生家文書」の調査・整理

### (1) 「麻生家文書」の”発見”

#### ○『麻生百年史』の編纂と「麻生家文書」の“発見”

・麻生セメント株式会社による社史を編纂<sup>12</sup>

→1974年7月、麻生家が保管する膨大な史料の存在が確認される

⇒秀村選三氏（九州大学経済学部教授）らが飯塚市柏の森にあった麻生家の米蔵に入り、史料と接する

※秀村氏による回想<sup>13</sup>（傍線は原口による）

昭和四十九年七月十二日、長い間の念願かなって飯塚市栢の森の麻生家のお蔵の中に入れていただいた。『筑豊石炭礦業史年表』の編纂にあたっている間、常に気になりながら、他の史料を見るのに追われて、ついに及ばなかった史料であった。麻生本家の屋敷の外、負立八幡宮の境内近くにある大きなお蔵の二階には二百箇余りの木箱や櫃のほか小箱、書棚等々があり、それらは長年の埃をかぶって静かに眠っていた。箱を開くと、古文書、資料類はほとんど傷んでなく、手にするもの一つ一つが今まで全く知らなかった生の石炭史料で、これほど大量の史料が人知れず眠っていたことに、ただ驚くばかりであった。薄暗いお蔵の中で時に息をのみ、時に感嘆の声をあげるほど質量ともにズッシリとした史料群であり、まさに十年に一度出会うか、否かの史料であった。……これらの文書はそれぞれの箱にたとえば「明治廿四年十月十二日蔵二収ム、飯塚触大庄屋中重要書類」と書かれているように、時に応じて整理、保存されたものらしく、また或る時期に、一つ一つの箱に年代ごと、炭坑ごと、或は庄屋、戸長時代のもの等々おおまかに分類されて保存されたようである。もっとも未整理のままに収められている箱も相当あるが、全体として見ると一応の系統は立っているようである。麻生太賀吉氏の談話によれば氏の幼時に吉浦勝熊氏という人がいて、文書の整理にあたったと云われ、また戦中・戦後、紙の不足した時代に外部からずいぶん処分転用するよう働きかけがあったらしいが、それを固く拒否した家令がいたことも聞いた。そういう点では決して偶然に残ったものではない。麻生家と同家をめぐる人々の重厚、篤実なものの考え方が此のすぐれた史料群を守ったと云えよう。これはたんに一麻生家の文書というだけでなく、今後筑豊石炭礦業史、日本石炭礦業史を解明するための基礎史料になるものであり、優に麻生資料館なり麻生修史室を置くに足るものである。また他面では嘉穂地方史の

<sup>12</sup> 以下の内容に関して、本講演は、古賀康士「麻生家文書の史料論的考察 一大規模史料群の調査のために一」（研究代表者・日比野利信『近代日本における企業家のネットワーク形成 一地方財閥の人脈に関する総合的研究一』平成28年度～平成30年度科学研究費助成事業研究成果報告書、2019年）の成果に多くを依っており、必要に応じて他の文献も参照した。

<sup>13</sup> 秀村選三「麻生家の古文書」（麻生百年史編纂委員会編『麻生百年史』創思社出版、1975年）。

みならず、筑前藩史・福岡県近代史にとっても絶好の史料として今後の研究が望まれるものである。その永久的保存を心から願ってやまない。……厩大な史料であるから、この研究〔麻生家文書の研究—引用者注〕の遂行のためには幾世代もかけねばならないであろう。したがって我々の世代はそのためには甘んじて踏台となり、肥料となる覚悟をもって、この文書には対処しなければならないのではあるまいか

※これまで見てきたごとく、麻生家・麻生商店の文書管理規定がかなりの期間有効であったことを裏付ける

#### ○四期に分けられる「麻生家文書」の整理

- 1) 第1期 (1974年～)：石炭研究資料センターにおける史料整理
- 2) 第2期 (1990年～)：麻生セメント株式会社資料が新たに受け入れられてから
- 3) 第3期 (2005年～)：記録資料館に史料群の管理が移されてから
- 4) 第4期 (2020年～)：記録資料館に麻生家文書研究部門が発足されてから

#### (2) 「麻生家文書」の整理方針

##### ○九州大学への受け入れ (第1次受入)

・1979年4月、九州大学石炭研究資料センター (以下、石炭研) の設立

→「麻生家文書」も社史編纂室から移管

※1984年11月、社史編纂室に石炭研究資料センター分室が設置され、「麻生家文書」の研究拠点がニヶ所となる

##### ○第1期の史料整理の方針

1) 史料の原秩序を尊重する形で整理が行われる

→「一応倉庫に納められた際の箱ごとに採録」<sup>14</sup>

2) 厳密な調査の遂行よりも、史料の全体像の把握が第一の目的に据えられる<sup>15</sup>

→整理した研究者の関心が高いものから、目録が作成される？

⇨大量の書簡類が未整理のまま、こんにちまで残ることに (後述)

##### ○『九州石炭礦業史資料目録』の刊行

・第1期の史料整理の成果は、『九州石炭礦業史資料目録』第1集～第11集に「麻生家文書」目録として掲載される (【表3】)

#### (3) 段階的な受け入れと整理

##### ○第2期の史料整理

・1990年、石炭研は「麻生セメント株式会社資料」を受け入れる (第2次受入)

→麻生商店・関連会社の洋式会計帳簿+新規に受け入れられた麻生家の史料

←史料受入時は「麻生セメント株式会社資料」と呼ばれる (現在は広義の「麻生家文書」と

<sup>14</sup> 秀村選三編『九州石炭礦業史資料目録』第2集 (西日本文化協会、1976年)、3頁。

<sup>15</sup> 秀村選三編『九州石炭礦業史資料目録』第1集 (西日本文化協会、1975年)、5頁。

して取り扱う)

・洋式会計帳簿：私家版の目録が作成（ただし、年次不詳）

→明治30年から戦後にかけて、麻生商店・麻生セメント株式会社をはじめ、麻生太吉・太賀吉が携わった関連会社に関する大判の洋式会計帳簿約3900点が整理される

⇒史料の保存状況が極めて劣悪で、水損などに伴う史料の固着、表紙の破損、カビ、虫損などが見られる

⇒後述するように、麻生家文書研究部門による現物照合作業で史料の状態確認と簡単なクリーニングは行っているものの、技術的・時間的な制約と史料点数の多さと相俟って、完璧なクリーニング・補修は難しい・・・次善の策としてのデジタル化

○記録資料館への組織替え

・2005年、附属図書館付設記録資料館として石炭研究センターは組織替えとなり、「麻生家文書」は産業経済資料部門の管理下に置かれる（第3期）

・太吉の日記を活字化：麻生太吉日記編纂委員会編『麻生太吉日記』全5巻（九州大学出版会、2011年～2016年）

・麻生太吉に即した成果として、第2期に「麻生家文書」整理の中心を担った新鞍拓生が、浩瀚な『筑豊鉱業主麻生太吉の企業家史』（裏山書房、2010年）を刊行

※さらに新鞍氏は、最近『九州の企業家麻生太吉の産業統治』（一粒書房、2022年）を刊行

○「麻生家文書」の分類名と史料構造

・「麻生家文書」：原史料が収納された箱などに与えられる識別番号にも複数の種類が用いられ、原史料を収納していた外容器（箱など）を対象に付されているものと、組織と編年を基準に与えられているものがある（【表4】）

→煩瑣になるが、「麻生家文書」の史料構造の特徴となるため、以下に説明

1) a：外容器分類：原史料が収納された外容器の箱書などにに基づき、箱別に1、2文字程度の識別記号を与えたもので、第1期に使用された

ex. 「近」：木箱の墨書「明治三拾九年八月廿二日調近来重要書類」の「近」を採った<sup>16</sup>／「藤」：「藤棚・本洞関係書類」と墨書された、みかん箱大の木箱一個に収められた史料<sup>17</sup>

・箱名に付されたアルファベットは何を意味するのか？

→「二坑A」～「二坑E」は藤棚第二砦（本洞坑）関係のもので、もとは大型の箱に一括して納められていたが、点数が多いので整理の都合で分割したものである<sup>18</sup>

※ただし、外容器分類における年次による記号名（「M21」、「M31」など）は、その多くが箱の上書に記載された年次によったと推測される

2) b：五十音分類：原史料が収納された箱別に五十音（「あ」～「わ」、ただし「く」は「くA」、「くB」と分けられ、「け」はなし）の1文字を付与したもの（【表5】）

<sup>16</sup> 秀村選三編『九州石炭礦業史資料目録』第7集（西日本文化協会、1981年）、1頁。

<sup>17</sup> 秀村選三編『九州石炭礦業史資料目録』第10集（西日本文化協会、1984年）、1頁。

<sup>18</sup> 秀村選三編『九州石炭礦業史資料目録』第4集（西日本文化協会、1978年）、2頁。



← 適当な箱書がないなど概要器分類による識別記号の付与が難しい際に使われたものカ

→ a: 外容器分類と異なり、識別記号から史料の内容が推測できない

3) c: 千字文分類: 原史料が収納された箱別に、「千字文」から漢字1字を選び識別記号として付与したもの (【表6】)

→ c 千字文分類は b: 五十音分類のあとに採用され、「可能な限り価値中立的な記号の使用を目指した結果」であったという、なぜなら「数字による箱へのナンバリングは、原史料の全体像に前後関係を想定させ、また史料番号とも混同が生じるために避けられた」という<sup>19</sup>

⇒ 千字文それ自体、現代日本人にとって難解な漢字があり、識別記号として不適当なことが少なからず発生・・・⇒ 千字文は途中で使用を終了

4) d: 関係会社別分類: 1990年受入の麻生セメント株式会社資料のうち、洋式会計帳簿に対して用いられた分類方法

→ 帳簿を作成した組織別に、帳簿の性格を踏まえたうえで年次別に整理番号が付与

ex. 「麻生商店-M31-1」: 麻生商店の明治31年の1番目の帳簿に与えられた整理番号

5) e: 書簡編年分類: 書簡類を編年で分類し、年次別にまとめたもので、例外として書簡の発信地別にまとめた「書簡県内」「書簡県外」の識別記号がある (【表7】)

→ 書簡類はもともと麻生家内部において年次別に収納されたケースが多く、一定期間ごとに書簡をまとめて保存していたことが窺える

⇒ 書簡編年分類としては、「書簡県内」「書簡県外」に加え、「書簡 M25」から「書簡 S8」まで確認され、一部は新鞍氏によってカード目録が作成される<sup>20</sup>

⇒ a: 外容器分類、b: 五十音分類、c: 千字文分類、f: 未整理ラベル分類、g: 無ラベル分類にも書簡は数多く収録され、また各簿冊にもその内容に関連する書簡や葉書、電報類が綴じ込まれており、「麻生家文書」の書簡総数を数えることは事実上不可能

6) f: 未整理ラベル分類: 「未整理」の箱ラベルが添付された分類で、「未整理」として1~251までナンバリングがなされている、史料の受入は第2次受入と推測される

7) g: 無ラベル分類: 箱にラベルが添付されていない史料の一群、史料の受け入れは第2次受入と推測される

8) その他: 上記のどれにも分類されない史料群を暫定的に「その他」と分類

<sup>19</sup> 前掲古賀「麻生家文書の史料論的考察」、18頁。

<sup>20</sup> 書簡を整理した新鞍氏によると、1930、1931年の来状が「麻生家文書」中になく、1930年10月に太吉をはじめとする九州水力電気株式会社幹部に露見した九州電気軌道前専務による不正手形問題との関連で、あえて書簡・電報を残さなかったためと推測している (前掲新鞍「麻生太吉書簡集 (一、電力業〈その一〉)」、14頁)。「麻生家文書」には、書簡 S6 (=1931年)の識別記号の史料が確認できるが、ざっと見た限りではあるが、年賀状などの簡単な挨拶状が多かった印象である。なお、この点は今後の整理状況によって情報が修正される余地もあるし、発信原稿や来信簿によって一定程度復元できる可能性も残っている。

○日比野利信らによる調査

・2018年、長らく調査が行われてこなかった f：未整理ラベル分類、g：無ラベル分類に関して概要調査を行い、「麻生家文書（未整理分）概要調査目録」として科研成果報告書『近代日本における企業家のネットワーク形成』に収録<sup>21</sup>

（4）麻生家文書研究部門と「麻生家文書」の整理の加速

○麻生家文書研究部門の設置

・2020年8月、株式会社麻生からの寄附金をもとに、「麻生家文書」整理・研究プロジェクトが発足、記録資料館に5番目の部門として、麻生家文書研究部門が設置（～2030年3月）

→「麻生家文書」の管理は時限的に産業経済資料部門から移管

⇒同年9月、原口大輔が特任講師として着任（2022年4月より講師へと身分変更）

・「麻生家文書」整理・研究プロジェクトが指すもの

1) 「麻生家文書目録データベース」の公開・充実による研究基盤の創出

2) 「麻生家文書」を核とする石炭産業をめぐる包括的研究の推進

3) 研究成果の発信

○「麻生家文書」の何が課題なのか？

・分散した目録とアクセスの不便さ

1) 『九州石炭礦業史資料目録』第1巻～第11巻（西日本文化協会、1975年～1986年）

→第1期に整理された「麻生家文書」の目録（【表3】）

※CiNii Books：『九州石炭礦業史資料目録』を所蔵する大学図書館は60館（2022年12月5日閲覧）・・・目録閲覧の困難さ

⇒2020年度、西日本文化協会のご高配を得て、当該目録のうち「麻生家文書」分をpdf化し、簡易OCR検索機能を付して、九州大学附属図書館にリポジトリ登録

<http://hdl.handle.net/2324/4104143>

2) 『麻生セメント株式会社資料』（私家版、刊行年未詳）

→第2期に整理されたd洋式会計帳簿の目録

⇨私家版の目録はほとんど流通せず、石炭研・記録資料館に関係を有する一部の研究者のみ目録の存在を知るため、事実上、外部の研究者は存在すら把握することが難しい

3) 記録資料館備付カード目録

→第1期、第2期に調査した史料は、カードに情報が採られ、記録資料館に備え付けられる  
=a 外容器分類、b 五十音分類、c 千字文分類、e 書簡編年分類のそれぞれ一部

○「麻生家文書」整理の何が課題なのか？

1) 史料整理を行う学生アルバイトの確保と育成

・史料整理は学生アルバイトと行うため、まずはくずし字に慣れるところから始まる

<sup>21</sup> 前掲日比野『近代日本における企業家のネットワーク形成』、137～209頁。

→学年が上がり、後輩が入ることで、先輩が指導しながらくずし字に少しずつ習熟していき、史料整理・目録作成の効率を上げていくサイクルを少しずつ構築<sup>22</sup>

・麻生家文書研究部門の発足(2020年8月):コロナ禍で学生たちは外出が大幅に制限され、学修もオンライン授業にせざるを得なかった

→11月から学生アルバイトを雇用し史料整理を開始

⇒2022年11月末、アルバイトで雇用した延人数は1958人

←おおよそ月に15名ほどの学生アルバイトを雇用し、整理を進める

## 2) 既発表目録の照合作業と未整理史料の発見

・既発表目録の情報を全て電子化(Excel入力)し、プリントアウトしたうえで、目録をもとに全て史料と現物照合を行い、必要に応じて目録情報を加筆修正し、全て史料を簡易的にクリーニングしつつ、AFエンベロープに入れ直し、文書箱も中性紙のものに入れ替える

⇨第1期に整理が終了していたと思われる文書箱の中にも未整理の史料が相当数発見される・・・とりわけa:外容器分類、b:五十音分類、c:千字文分類にも所収された書簡史料の整理・目録作成が未着手

## 3) f:未整理ラベル分類、g:無ラベル分類の扱い

・これらは識別記号が与えられていない史料ゆえ、整理する際に何らかの識別記号を与える必要あり

→これまでの経緯を鑑み、元の文書箱に箱番号として算用数字「1」から順番に付与

※2022年度:1~100までを整理し、目録を作成(2023年3月目録公開予定)

## 4) e:書簡編年史料の目録作成

・e:書簡編年史料は膨大な書簡・葉書・電報などで構成(【表7】)

←石炭研時代より図書ラベルの貼付と目録の作成は行われてきたものの……

→過去に作成された目録の照合作業に加え、6万点以上の新規整理が必要となる

⇨書類や簿冊、印刷物などは比較的容易に調書作成ができるが、書簡史料は悪筆や固有名詞など、1点の調書を作成するための読解に時間がかかってしまう

○「麻生家文書」目録データベースの公開(2022年11月)

・2022年11月、eリソース課のご協力をいただき、九州大学附属図書館ホームページに「麻生家文書」目録データベースを公開

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac\\_browse/aso/](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_browse/aso/)

→第1回公開分として、b五十音分類(【表5】)、c千字文分類(【表6】)、e書簡編年分類のうち書簡県内・書簡県外の合計22440点のメタデータを公開

・目録データベース公開のインパクト

1) 上記目録の統合を図ったことにより、オンラインで複数の目録を検索可能に

<sup>22</sup> さしあたり、本部門開設以降、原口大輔「新規整理分「麻生家文書」目録」(『エネルギー史研究』第36号、2021年)、同「新規整理分「麻生家文書」目録(二)」(『石炭研究資料叢書』第41輯、2022年)で新たな史料目録を公表している。

2) 来館してはじめてカード目録を探すという作業がなくなったため、伊都キャンパスに来るまでに、かなりの程度閲覧したい史料を絞り込むことができ、調査時間の効率化が図れる

3) 検索結果により、思いがけない“未知”の史料を発見することも

→結果として、これまでより多くの方々・関心から「麻生家文書」を活用・調査してもらえる可能性が高まる

### 3. 「麻生家文書」の見どころ

(1) 電子展示・小展示「麻生家文書」とその世界」で目指したもの

#### ○展示の意図

・「麻生家文書」とはいったいどのような史料群なのか？ どのような史料があるのか？

→実際の史料をもとに応答する展示

・電子展示（附属図書館ホームページ）と小展示（中央図書館3階エントランス）の実施

#### ○学生も展示準備から参加

・今回の展示：史料整理アルバイトの参加者から希望者を募る

→目録から出品した史料候補を複数あげてもらい、その中から実際に解説を執筆したい史料を1点ないしは複数点選択し、解説の執筆に加え、書簡史料は翻刻も課す

⇒学生が作成した解説、翻刻を原口がチェックし、小展示の準備も手伝ってもらうことに

※今回の電子展示・小展示が成功したと評価してもらえるのなら、それはひとえに学生たちが一生懸命取り組んでくれたおかげ

(2) 展示会には出せなかった様々な史料から

#### ○「麻生家文書」の多様性

・石炭産業にとどまらず、近現代日本における政治・社会・経済・文化に関わる様々な史料が所蔵される・・・筑豊—福岡—日本—外国とその射程も広い

史料整理のその先へ——おわりに

#### ○「二重」の整理過程

・ぴったりとは重なり合わない「二重」だが・・・

1) 麻生家・麻生商店における整理：「家説」、「店則」といった文書管理規定に基づく、“現用文書”として活用するための整理・・・「麻生家文書」の“原秩序”の形成

2) 九州大学における整理：「麻生家文書」の“発見”以降、結果的に1)の整理、すなわち「麻生家文書」の“原秩序”をなぞりつつ、整理が進められる

←「長い調査期間のなかで、史料整理に関わる様々な基礎情報（例えば、史料の識別番号や分類方法）が生み出されたが、その一部は十分に引き継がれることなく、徐々に膨大な史料群の全体像の把握が困難となりつつある」「この間に進んだ調査者の世代交替もこれに拍車

をかけている」<sup>23</sup>

→麻生家・麻生商店における整理から九州大学での長い期間にわたる現在進行形の整理は、確かに「麻生家文書」の意義や価値を示すものであり、重要な研究成果も出されてきた

○「麻生家文書」の特徴

- 1) 賀郎・太吉の存命時期、すなわち近世後期から昭和初期までの史料が大量に残される
- 2) 経営関係は明治後期が充実しており、一方、1934年以降は麻生家の私文書の量は低減
- 3) 史料の年限はおおよそ昭和50年代が下限、戦後は太賀吉の国会関係の議事速記録を中心とした官報や、経営関係の史料が中心

・史料：保存と活用こそが両輪

有名な人が書いたか無名の人がかいたかに関わらず、どんな文書も歴史の研究目的によっては重要な資料に成り得るということでしたが、裏を返せば、世の中で行われている研究にはそれらを掬う優しさがあるのだと感じました（2022年度後期・歴史学入門第3回講義コメントより）

→「麻生家文書目録データベース」の公開：より多くの方々に「麻生家文書」を閲覧していただき、研究に活用してもらいたい

ex. 本家日誌や麻生商店各係の日誌の翻刻・活用、発信原稿と来簡の相互関係<sup>24</sup>

○「麻生家文書」の整理のこれから

・近年、著しく蓄積される図書館情報学やデジタルアーカイブの知見を「麻生家文書」の整理・活用にどう反映させるか

※現実的な問題として、全ての史料を撮影し、デジタル化して公開することは難しい

・順調に進みつつも、ゴールはまだ遠く、日々の史料整理を着実に進めることが第一

⇨大量の調査未採録の書簡・・・目録作成よりも史料の保存措置を優先？

⇒学内外の多くの方にご指導、ご鞭撻を仰ぎつつ、「麻生家文書」の保存・活用の行く末を見守っていただきたい

---

<sup>23</sup> 前掲古賀「麻生家文書の史料論的考察」、10頁。ただし、このことは、「麻生家文書」の基礎情報として貴重な成果であるこの論考が、科研費の成果報告書に所収されているため、情報の入手が安易ではなく、それ以上に、これまで石炭研・記録資料館が所蔵する史料群に関して情報発信を十分に行ってこなかったことに大きな問題があろう。この点を踏まえ、古賀氏の成果をもとに、試みとして、原口大輔「麻生家文書研究部門の設置」（『九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター』第15号、2021年）では、リポジトリ登録されるメリットを活かし、本報告で紹介した史料群の構造を簡単に紹介している。

<sup>24</sup> 「麻生家文書」に残った来簡や発信原稿の一部から、電力業関係の史料を翻刻した、前掲新鞍「麻生太吉書簡集（一、電力業〈その一〉）」、同「麻生太吉書簡集（一、電力業〈その二〉）」―麻生太吉日記関係史料―（『石炭研究資料叢書』第34輯、2013年）など。

【表1】「家証」による麻生家・麻生商店で作成すべき帳簿類

第23条	第24条
地所台帳	緊要事蹟留
鉱区台帳	諸方往復纏
貸金帳	諸願伺届
諸株式根帳	各坑山事蹟各別
坑業資本勘定元帳	諸会社事蹟各別
坑業勘定元帳	官地拝借願届
諸営業資本勘定元帳	各坑山地元約定証
諸営業勘定元帳	坑区株譲受渡留
金銭出納帳	地所事蹟
金銭日計帳	土地売渡証
総勘定帳	炭代仕切目六
家費仕払元帳	定約船事蹟
日誌	諸印紙収支帳
小作帳	諸品買入事蹟
現米出納帳	注文帳
納税帳	文書原稿
判取帳	建築修繕工作事蹟
炭代勘定帳	職工日稼使役帳
家具什器台帳	貸付返金期日帳
開墾帳	任免賞罰事蹟
定約船台帳	学生事蹟
借地台帳	
村補金台帳	
寄附義捐帳	

典拠：「家証」（「麻生家文書」肝要-15）より作成。

【表2】「店則」による各課事務職掌

庶務課（第23条）	坑務課（第24条）
日誌ノ編成 統計 報告ノ調成 官公署願伺上申書等ノ起案提出 契約書及規則所ノ起案及手続 取引ニ関セサル往復文書及来客ノ応接 書類ノ蒐集整頓 店員ノ勤怠懲罰ノ調査 店員及在外営業所員名簿調製及保管 土地貸付売買及保管小作米ノ徴収 地所家屋ノ登記手続 土地家屋台帳ノ整理 各課ノ主管ニ属セサル事項 店主店長ヨリ特ニ命セラレタル事務	各坑ノ巡視監督 採鉱及工事設計ノ指定 鉱山内外及土地ノ実測製図 坑業施業按ノ調製 測量ニ関スル器械及書類ノ保管 巡回日誌及測量日誌ノ編成 建設土工ニ関スル設計及取締 店主店長ヨリ特ニ命セラレタル事務
会計課（第25条）	商務課（第26条）
金銭ノ出納管理 重要書類及有価証券ノ保管 諸帳簿ノ整理諸表ノ編製 予算ノ調製 決算報告 石炭ノ勘定 金銭ノ貸借 国債及株式ニ関スル事 家費ノ勘定 金庫ノ開閉 収入支出ニ関スル証憑書類ノ保管 店印及印紙ノ保管 店主店長ヨリ特ニ命セラレタル事務	石炭米穀及工場製品ノ売買 需要品ノ購買及配給保管 機械什器ノ管理 物品ノ貸借及其料金ニ関スル件 物品ノ製造 機械什器台帳ノ整理 物品出納ニ関スル帳簿ノ整理 精米場及各工場ノ物品勘定ニ係ル帳簿ノ整理 現品有高表調成報告 各工場職工日役ノ取締 不用物品ノ売却 石炭貨物ノ運搬ニ関スル事 物品注文及売買取引ニ関スル来客ノ応接及往復文書 工場日誌ノ編成 取引ニ係ル書類ノ保管 店主店長ヨリ特ニ命セラレタル業務

典拠：「麻生商店々則・同坑務細則・同給与規則・来信取扱心得・舎宅貸与規則」（「麻生家文書」各坑C-16-5）より作成。

【表3】『九州石炭礦業史資料目録』所載の麻生家文書の概要

	収録目録	分類名(箱名)	摘要	分類
1	麻生家文書(1)	M21	明治14~30年頃鯉田炭坑ほか経営資料	a外容器分
2	麻生家文書(1)	M31	明治29~31年頃炭坑経営関係資料	a外容器分
3	麻生家文書(1)	M32A	明治29~32年頃炭坑経営関係資料	a外容器分
4	麻生家文書(1)	M32B	明治28~32年頃麻生商店ほか経営資料	a外容器分
5	麻生家文書(1)	M33	明治31~33年頃麻生商店ほか経営資料	a外容器分
6	麻生家文書(1)	M35B	明治31~35年頃麻生商店ほか経営資料	a外容器分
7	麻生家文書(1)	嘉麻A	明治22~大正8年頃芳雄坑・嘉麻燧石ほか経営資料	a外容器分
8	麻生家文書(1)	嘉麻B	明治23~大正6年頃嘉麻坑ほか経営資料	a外容器分
9	麻生家文書(1)	嘉麻C	明治20年代前半嘉麻燧石社ほか経営資料	a外容器分
10	麻生家文書(1)	燧石A	明治20年代嘉麻燧石社経営資料	a外容器分
11	麻生家文書(1)	忠隈A	明治20年代忠隈炭坑経営資料	a外容器分
12	麻生家文書(1)	忠隈B	明治18~24年頃忠隈炭坑経営資料	a外容器分
13	麻生家文書(1)	笠松A	明治15~25年頃笠松坑事務所ほか経営資料	a外容器分
14	麻生家文書(1)	日誌	明治27~昭和8年麻生本家日誌	a外容器分
15	麻生家文書(1)	三井	明治30年代三井物産関係ほか経営資料	a外容器分
16	麻生家文書(1)	筑鉄	明治21~36年頃筑豊興業鉄道関係経営資料(創立関係資料ほか)	a外容器分
17	麻生家文書(1)	経	明治17~明治31年頃麻生本家家政関係資料	a外容器分
18	麻生家文書(1)	緊要	明治12~昭和9年頃緊要書類ほか	a外容器分
19	麻生家文書(1)	芳	明治32・33年上三緒坑・芳雄坑経営資料	a外容器分
20	麻生家文書(1)	組	箱墨書「筑豊礦業組合書類」(調査写真より)	a外容器分
21	麻生家文書(1)	あ	明治中期より大正期書類入り(「石炭共同販売二関スル書類」ほか)。蓋裏に「在中書類目録」貼付	b五十音分
22	麻生家文書(1)	くA	明治後期経営関係資料(「嘉麻郡銀行書類留」ほか)	b五十音分
23	麻生家文書(1)	こ	明治30~40年代炭坑経営関係資料(「鉱業各係員日誌」ほか)	b五十音分
24	麻生家文書(1)	さ	明治6~17年頃石炭販売関係ほか経営資料	b五十音分
25	麻生家文書(1)	嘉麻A 補遺	(嘉麻A参照)	a外容器分
26	麻生家文書(2)	燧石B	明治10年代燧石坑関係資料	a外容器分
27	麻生家文書(2)	笠松B	明治36~40年代販売・取引関係資料(明治40年藤棚・本洞坑売却後分力)	a外容器分
28	麻生家文書(2)	戸長	慶応2~明治17年戸長役関係ほか資料	a外容器分
29	麻生家文書(2)	M6	万延元~明治9年頃副戸長など公役関係資料	a外容器分
30	麻生家文書(2)	M34	明治30年代・大正期麻生商店経営資料	a外容器分
31	麻生家文書(2)	M38	明治38年前後麻生商店の文書・伝票(明治40年藤棚・本洞坑売却後分力)	a外容器分
32	麻生家文書(2)	M40	第一分配所関係資料(明治40年藤棚・本洞坑売却後分力)	a外容器分
33	麻生家文書(2)	藤棚	第三分配所関係・藤棚坑支払報告伝票ほか資料(明治40年藤棚・本洞坑売却後分力)	a外容器分
34	麻生家文書(2)	本洞	明治30年代本洞藤棚礦業所採坑関係資料(明治40年藤棚・本洞坑売却後分力)	a外容器分
35	麻生家文書(2)	出納	明治20年代麻生本家・麻生商店出納関係資料	a外容器分
36	麻生家文書(2)	き	明治20~40年代津屋崎別荘など家政関係資料、藤棚炭坑関係を含む	b五十音分
37	麻生家文書(2)	野取	明治30年代本洞炭坑ほか伝票類	a外容器分
38	麻生家文書(2)	本家	明治40年代・大正期麻生本家家政関係資料	a外容器分
39	麻生家文書(2)	延	幕末・明治初年庄屋・触口在勤中資料(延宝8年文書を含む)	a外容器分
40	麻生家文書(3)	安	幕末維新时期麻生家経営・村方史料	a外容器分
41	麻生家文書(3)	庄屋A	明治初年立岩村関係資料	a外容器分
42	麻生家文書(3)	庄屋C	幕末期村方史料、石炭関係、普請関係、夫役、未進判、旅日雇関係史料	a外容器分
43	麻生家文書(3)	明A	幕末維新时期、明治初年の村方史料で石炭・川歸関係史料	a外容器分
44	麻生家文書(3)	小作	明治10年代の麻生家の小作米関係、立岩村の税納金米、明治23・24年笠松炭坑関係資料、明治13・15・17年の書状綴	a外容器分
45	麻生家文書(3)	地券	地租改正時の嘉麻郡立岩村の地券御願書(明治3・5年)	a外容器分
46	麻生家文書(3)	若築	若松築港株式会社関係(明治20年代~大正期)	a外容器分
47	麻生家文書(3)	山内	明治20・30年代山内・上三緒炭坑に関する伝票・書類(箱書「山内坑書類」、外容器仮8)	a外容器分
48	麻生家文書(3)	調度	明治39~41年頃麻生商店調度部・第一分配所関係ほか書類	a外容器分
49	麻生家文書(3)	緊要(第一集収録)補遺	(緊要参照)	a外容器分
50	麻生家文書(3)	あ(第一集収録)補遺	(あ参照)	b五十音分
51	麻生家文書(4)	庄屋B	天保2~明治初年の史料	a外容器分
52	麻生家文書(4)	忠隈C	忠隈炭坑関係	a外容器分
53	麻生家文書(4)	忠隈D	忠隈炭坑関係	a外容器分
54	麻生家文書(4)	二坑A	藤棚第二坑関係(二坑A~二坑Eもと同一箱に収納を調査時に分割)	a外容器分
55	麻生家文書(4)	二坑B	(同上)	a外容器分
56	麻生家文書(4)	二坑C	(同上)	a外容器分
57	麻生家文書(4)	二坑D	(同上)	a外容器分
58	麻生家文書(4)	二坑E	(同上)	a外容器分
59	麻生家文書(4)	庶務	麻生商店日誌(明治42~大正15年)	a外容器分
60	麻生家文書(5)	明B	飯塚触口役在職時の関係資料(嘉永5~明治0年代)	a外容器分
61	麻生家文書(5)	くB	大字飯塚・立岩耕地整理関係資料(明治31~昭和6年頃)	b五十音分
62	麻生家文書(5)	し	上三緒坑・芳雄坑など日誌類(明治30年代)	b五十音分
63	麻生家文書(5)	す	麻生商店ほか関係資料(明治期、明治初年資料を含む)	b五十音分
64	麻生家文書(5)	せ	山内坑・芳雄坑ほか経営関係資料(明治20年代)	b五十音分

	収録目録	分類名(箱名)	摘要	分類
65	麻生家文書(5)	商A	山内坑・上三緒ほか経営関係資料	a外容器分
66	麻生家文書(5)	M42	麻生本家関係資料ほか(明治42年前後)	a外容器分
67	麻生家文書(5)	M44	麻生本家関係資料ほか(明治44年前後)	a外容器分
68	麻生家文書(5)	肝要	明治10年代肝要書類、家説ほか	a外容器分
69	麻生家文書(5)	帳	笹原坑ほか各坑勘定帳、麻生商店金銭出納帳ほか(明治30～昭和10年代)	a外容器分 類
70	麻生家文書(6)	大	安政期～明治初年頃の村方史料。箱書「明治廿四年十月十二日蔵二収ム、飯塚触大庄屋中重要書類」カ(秀村選三「麻生家の古文書」103頁)	a外容器分 類
71	麻生家文書(6)	そ	鯉田炭坑関係(明治18～22年頃)	b五十音分
72	麻生家文書(6)	各坑B	明治26～30年麻生商店所管の経営資料	a外容器分
73	麻生家文書(6)	各坑C	明治26～30年麻生商店所管の経営資料	a外容器分
74	麻生家文書(7)	漕	川漕関係資料(明治10～30年代初め)	a外容器分
75	麻生家文書(7)	各坑A	各炭坑や鉱区の事蹟・定約証類	a外容器分
76	麻生家文書(7)	当用日記	麻生太吉日記(明治39年～昭和6年分)	a外容器分
77	麻生家文書(7)	近	箱書「明治三十九年八月廿二日調 近來重要書類」、麻生本店所管の書類カ(目録解題1頁)	a外容器分 類
78	麻生家文書(7)	本	明治40年代の麻生本家関係書類(日誌、備忘録など)	a外容器分
79	麻生家文書(8)	水	幕末～明治初期庄屋関係書類	c千字文分
80	麻生家文書(8)	大(第六集収録)補遺	(大参照)	a外容器分
81	麻生家文書(9)	い	大型の木箱に収納されていた幕末維新期村触口役関係、明治20年頃までの史料(解題1頁より)	b五十音分 類
82	麻生家文書(10)	藤	明治20・30年代藤棚坑ほか経営資料。もと木箱入り(木箱上書「藤棚・本洞関係書類」、目録解題1頁)	a外容器分 類
83	麻生家文書(11)	諸	『麻生太吉翁伝』編纂時の史料カ	a外容器分
84	麻生家文書(11)	大(第六集収録分補遺、第八集のつづき)	(大参照)	a外容器分 類

典拠：『九州石炭産業史資料目録』第I～II集より作成。

註：摘要は、収納資料の概要を目録解題などを参照にして記した。



【表4】「麻生家文書」の分類と整理状況（2022年11月末時点）

分類名	分類名摘要	整理状況	データベース登録	検索手段
a外容器分類	「藤」など箱書の一部文字から命名したもの	一部整理済	未登録	『九州石炭鉱業史資料目録』第1～11巻、『石炭研究資料叢書』第37、38輯
b五十音分類	「あ」～「わ」と五十音順に命名したもの	整理済	全て登録済	データベース、『九州石炭鉱業史資料目録』第1～11巻、カード
c千字文分類	「千字文」に由来し命名したもの	整理済	全て登録済	データベース、カード
d関係会社別分類	麻生商店など各社洋式会計帳簿	一部整理済	未登録	麻生セメント株式会社資料目録（私家版）
e書簡編年分類	書簡M25～S8、書簡県内、書簡県外	一部整理済	一部登録済	データベース（書簡県内、書簡県外）、カード
f未整理ラベル分類	その他	整理中	未登録	「概要目録」
g無ラベル分類	その他	未整理	未登録	「概要目録」
その他	伝来過程が不明な雑多な史料	未整理	未登録	なし

典拠：原口大輔「麻生家文書研究部門の誕生とその活動」（『九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター』第15号、2021年）所収【表】を改稿。

注1：カードとは、記録資料館閲覧室に備え付けられているカード目録のこと。

注2：「概要目録」とは、日比野利信『近代日本における企業家のネットワーク形成』（平成28年度～平成30年度科学研究費助成事業研究成果報告書、2019年）に収録された「麻生家文書（未整理分）概要調査目録」のことであり、文書箱ごとに所収された史料の概要である。

注3：データベースとは、2022年11月に九州大学附属図書館ホームページ内で公開された「麻生家文書目録データベース」（[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac\\_browse/aso/](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_browse/aso/)）のこと。

【表5】2022年11月「麻生家文書目録データベース公開」b五十音分類概要

	記号	数量	摘要	目録初出	備考
1	あ	211	明治・大正期経営関係史料	九1・九3	
2	い	152	明治初期庄屋・戸長関係史料	九9	
3	う	340	家政関係史料・明治後期書簡	カード	う-120~199は欠番。
4	え	61	明治後期家政関係史料ほか	カード	
5	お	2367	昭和戦後書簡・挨拶状	カード	
6	か	45	美術品などに関する書籍ほか	エ36	
7	き	22	津屋崎別荘関係史料ほか	九2	
8	くA	45	明治後期麻生商店庶務部史料ほか	九1	
9	くB	58	昭和初期立岩・飯塚耕地整理関係史料、明治末期炭鉱経営関係史料など	九5	
10	け	—	—	—	「け」と付された史料群はなし。
11	こ	93	明治後期藤棚本洞経営・坑夫関係史料	九1	
12	さ	94	明治初期石炭関係史料	九1	
13	し	163	明治後期上三緒坑・芳雄坑関係史料	九5	
14	す	153	明治期炭個経営関係・家政関係史料	九5	
15	せ	67	明治中期上三緒坑・山内坑関係史料	九5	
16	そ	265	鯉田坑関係史料ほか	九6	
17	た	223	寄附関係書類綴・大正初期石炭プール関係史料	カード	
18	ち	48	明治後期石炭運搬関係史料	カード	
19	つ	70	麻生商店物品購入関係史料	カード	
20	て	68	昭和初期浜の町別荘関係史料ほか	カード	
21	と	140	明治後期石炭販売関係史料ほか	カード	
22	な	32	緊要書類・肝要廉付帳ほか	カード	
23	に	38	明治後期麻生商店物品管理関係史料	カード	
24	ぬ	121	昭和3年炭鉱経営関係史料ほか	カード	
25	ね	29	大正4年家政関係史料ほか	カード	
26	の	114	大正8年家政関係史料ほか	カード	
27	は	1212	明治36年書簡ほか	カード	
28	ひ	166	明治後期麻生商店経営関係史料	カード	
29	ふ	318	大正3年家政関係史料・関係会社関連史料	カード	
30	へ	69	昭和4年家政関係史料・炭鉱経営関係史料ほか	カード	
31	ほ	242	昭和2年炭鉱経営関係史料ほか	カード	
32	ま	120	昭和6年家政関係史料ほか	カード	
33	み	220	昭和7年家政関係史料ほか	カード	
34	む	114	明治後期麻生商店物品管理関係史料	カード	
35	め	138	明治後期炭坑経営関係史料	カード	
36	も	107	明治後期麻生商店物品管理関係史料	カード	
37	や	32	明治後期麻生商店経営関係史料	カード	
38	ゆ	48	明治後期麻生商店経営関係史料	カード	
39	よ	312	明治31年麻生商店経営関係史料	カード	
40	ら	547	明治後期麻生商店経営関係史料・書簡	カード	
41	り	35	明治39年麻生商店経営関係史料	カード	
42	る	73	明治中期笠松坑関係史料ほか	カード	
43	れ	79	明治後期三井物産関係史料ほか	カード	
44	ろ	189	明治後期麻生商店経営関係史料	カード	
45	わ	137	関係会社営業報告書ほか	カード	
	合計	9177			

注1) 目録初出の「九」とは、西日本文化協会編『九州石炭礦業史資料目録』を略記したものである。例えば、「九1」は同書第1集を指す。

注2) 目録初出の「カード」とは、記録資料館備付カード目録のことを指す。

注3) 目録初出の「え」とは、『エネルギー史研究』を略記したものである。例えば、「エ36」は『エネルギー史研究』No.36を指す。

注4) ただし、全ての史料に現物照合を行い、目録の校正を行った結果、新たに採録された史料や目録情報に加筆修正が施されたものが相当数ある。

【表6】2022年11月「麻生家文書目録データベース公開」c千字文分類概要

	記号	点数	摘要	目録初出
1	天	103	明治後期麻生商店経営資料	カード
2	地	102	木箱「精米事蹟」	カード
3	玄	275	木箱「雜往復事蹟 商務」	カード
4	黄	269	[分配所事績]、木箱入り	カード
5	宇	82	[大正・昭和戦前・戦後経営資料]	カード
6	宙	135	木箱「藤棚本洞鉱業中重要書類及三井銀行并二三井鉱山会社関係書類」	カード
7	洪	165	[明治9年頃書類]	カード
8	荒	250	[明治22年頃書類]	カード
9	日	166	[明治2年前後から同10年代頃書類]	カード
10	月	89	[昭和戦前・戦後経営資料]	カード
11	盈	22	[昭和戦後経営資料]	カード
12	盈A	300	[幕末～明治初期庄屋関係書類]	カード・石41
13	辰	214	[大正7・8年頃麻生本家・別府別荘書類]	カード
14	宿	31	麻生事務部帳簿 [昭和戦前期]	カード
15	列	48	明治後期～昭和戦後までの経営書類 (若松出張所・別府別荘ほか)、慶応2年帳面 (頼母子講関係)	カード
16	寒	20	明治40年代から昭和戦前期までの坑木・金物注文台帳など	カード
17	来	74	大正九年中本家書類入	カード
18	暑	68	大正十年中本家書類入	カード
19	往	92	[大正十一年中本家書類入]	カード
20	秋	83	[大正十二年中本家書類入]	カード
21	収	167	大正十三年中本家書類 (1箱)	カード
22	冬	105	大正十四年中本家書類 (1箱)	カード
23	蔵	61	大正十五年中本家書類 (1箱)	カード
24	閏	54	[昭和九年中本家書類]	カード
25	余	38	緊要書類・往復文書入 (木箱1)	カード
26	成	41	石炭販売事績 [明治35年] (木箱1)	カード
27	歳	77	明治三十三年庶務書類 (木箱1) [中身は明治36～38年本洞・藤棚坑関係]	カード
28	律	126	[明治末年から大正中期頃までの書類]	カード
29	呂	37	[昭和六年頃書類]	カード
30	調	40	[明治30年代～大正期書類・土地関係など]	カード
31	陽	39	昭和十年度本家書類 (「昭和十年本家書類」の箱に入っていた)	カード
32	雲	42	昭和十一年本家書類 (「昭和十一年本家書類」の箱に入っていた)	カード
33	騰	31	昭和十二年度本家書類入	カード
34	致	21	昭和十三年度本家書類入	カード
35	雨	20	昭和十四年度本家書類入	カード
36	露	47	昭和十五年度書類入	カード
37	結	661	昭和十六年度書類入	カード
38	為	873	昭和十七年度書類入	カード
39	霜	130	麻生別荘関係、柳行李入	カード
40	金	46	本家書類 (明治45年～大正2年) [大正2年書簡は書簡T2に移動とあり]	カード
41	生	39	[無題の箱に嘉麻坑、明治四十五年書類など在中、明治45年書簡は書簡M45に移動とあり]	カード
42	麗	35	木箱「重要書類」	カード
43	水	145	[幕末～明治初期庄屋関係書類]	九8
44	玉	339	[浜の町別荘関係書類]	カード
45	出	70	木箱「主人様用仕約目録入」	カード
46	崑	58	木箱「上京上阪旅費目録入」	カード
47	岡	58	木箱「家費二係ル書類」	カード

48	剣	909	木箱「明治廿五年・廿六年会計決算材料」	カード
49	号	13	[明治前期帳簿類]	カード
50	巨	77	[明治中期忠限炭鉱関係書類など]	カード
51	関	823	[明治後期炭坑関係書類、麻生太吉宛書簡・電報など]	カード・石41
52	珠	32	木箱「金銭」	カード
53	称	81	木箱「昭和八年本家書類入」	カード
54	夜	582	[幕末庄屋関係書類]	カード
55	光	120	木箱「明治三十五年度会計書類」	カード
56	果	125	[明治後期勤怠簿ほか]	カード
57	珎	33	[明治期日焼炭鉱関係ほか]	カード
58	李	104	木箱「明治三十九年会計書類」	カード
59	奈	405	[明治37年度予算書ほか]	カード
60	菜	120	[三拾九年歳度予算 式坑内ほか]	カード
61	重	194	[明治29年1月起 諸物品買入帳ほか]	カード
62	芬	1474	[幕末庄屋関係書類・書簡など]	カード・石41
63	薑	165	木箱「日焼坑山書類」	カード
64	海	101	[明治後期経営資料]	カード
65	鹹	44	[昭和戦後経営資料、大正9年・10年精米所日報]	カード
66	河	41	国産りんご箱 [麻生産業株式会社関係]	カード
67	鱗	16	[昭和戦前・戦後経営資料]	カード
68	潜	31	[九鉄関係書類・明治初期庄屋関係書類]	カード・石41
69	羽	160	木箱「重要書類箱」 [明治前期経営資料など]	カード
70	翔	14	木箱「自式拾三年至式拾四年来状併ニ必要書類」 [明治中期書簡一括など]	カード
71	文	376	[幕末庄屋関係書類]	カード・石41
72	陶	291	[明治前期石炭関係書類]	石41
73	令	46	[麻生家辞令関係書類]	石41

合計 12365 点

註1) 摘要については、古賀康士「麻生家文書の史料論的考察」(研究代表者・日比野利信『近代日本における企業家のネットワーク形成』平成28年度～平成30年度科学研究費補助事業基盤研究(C)成果報告書)にその後の調査で判明した内容の追記を行った。主に採録カードに記載された情報を記し、作表者の判断で加えた情報は、[ ]で示した。

註2) 目録初出の「カード」とは九州大学附属図書館付設記録資料館に設置された採録カードのことで、「石41」とは、『石炭研究資料叢書』第41輯のことである。ただし、全ての史料に現物照合を行い、目録の校正を行った結果、新たに採録された史料や目録情報に加筆修正が施されたものが相当数ある。

【表7】e書簡編年分類中史料概数

年	点数	備考
書簡M25	1034	未整理
書簡M26	-	書簡M25のラベル貼付
書簡M27	-	書簡M25のラベル貼付
書簡M28	1740	未整理
書簡M29	2310	未整理
書簡M30	2664	未整理
書簡M31	1887	未整理、未ラベル史料あり
書簡M32	2398	未整理
書簡M33	2257	未整理
書簡M34	2196	未整理
書簡M35	2904	未整理、未ラベル史料あり
書簡M36	-	
書簡M37	-	
書簡M38	-	
書簡M39	-	
書簡M40	-	
書簡M41	2158	未整理
書簡M42	993	未整理
書簡M43	1374	未整理
書簡M44	1895	未整理
書簡M45	1092	未整理、未ラベル史料あり
書簡県内	227	整理済、データベース公開済
書簡県外	670	整理済、データベース公開済

年	点数	備考
書簡T2	492	整理済、2023年3月目録公開予定
書簡T3	2561	書簡T3-850までカードあり
書簡T4	802	書簡T4-802までカードあり
書簡T5	1255	書簡T5-911までカードあり
書簡T6	1756	書簡T6-1117までカードあり
書簡T7	1652	書簡T7-759までカードあり
書簡T8	3545	書簡T-864までカードあり
書簡T9	2985	書簡T9-922までカードあり、未ラベル史料あり
書簡T10	3170	書簡T10-710までカードあり
書簡T11	3780	書簡T11-350までカードあり
書簡T12	4021	書簡T12-524までカードあり、未ラベル史料あり
書簡T13	1485	書簡T13-946までカードあり
書簡T14	2962	書簡T14-1274までカードあり、未ラベル史料あり
書簡T15	2957	書簡T15-897までカードあり、未ラベル史料あり
書簡S2	2140	書簡S2-1570までカードあり、未ラベル史料あり
書簡S3	3196	書簡S3-1372までカードあり
書簡S4	1806	書簡S4-1288までカードあり、未ラベル史料あり
書簡S5	2455	未整理
書簡S6	2386	未整理
書簡S7	3617	未整理
書簡S8	3651	未整理
暫定点数	80473	15156点カードあり、1439点整理済、残り63878点

注1) 点数は史料に付された親番をカウントしたものであり、枝番としてカウントされるものは想定されていない。  
注2) 「未ラベル史料」とは、史料に図書ラベルは貼付されておらず、史料点数を数えきることができないことを示  
注3) 「カード」とは、記録資料館備付カード目録のことで、過去に目録が採られたことを示すが、麻生家文書研究部門による現物との照合作業や目録情報の加筆修正は行っていない。